

活動報告 04 横浜メダカの会 会長 有馬 武裕・MEDAKA 代表 田村 安弘



横浜メダカの会では宅地開発によって生息地を失った地場の野生メダカを保護し、域内保全を行っている。小学校へ出前授業を活発に実施しているほか、横浜市内の動物園においてビオトープを造成し、メダカを域内保全すると同時に生態系保全の生きた教材としてメダカを展示する啓蒙活動を続けている。メダカが野生で生息できる環境が限られている状況で、活動の将来の方向性を模索している。

MEDAKAでは海外のメダカ近縁種の保全活動を支援しており、アクアライフに記事を投稿するなど、若い世代へ情報発信することによって、メダカ・生態系保全の意識の拡大を目指している。

活動報告 05 武生めだか連絡会 橋本 弥登 志

武生めだか連絡会では、2021年より越前市社会福祉協議会と共催で【いのちの大切さを学ぶメダカの里親プロジェクト】を実施している。児童館でのメダカの飼育や、子ども達にメダカの里親になってもらい繁殖させる活動を行っており、今年で3年目。子どもとメダカの輪は広がりつつある。また、改良メダカ愛好家が全国的ブームになっていることから、市内のキャンプ場のイベント時に「再発見メダカの魅力」と題し、メダカ専門店にも出店を依頼。私たちのメダカグッズなどと共に改良メダカの展示販売も行いお互いの理解を深めた。



資料による活動報告 06 ウェットランド中池見 笹木 智恵子

当NPO法人は、今年度末をもって解散の予定です。新幹線工事に伴う水環境への懸念がありましたので、解散をのばしてきましたが、開業を見届けて仕事は終わったとして、現在解散への手続き準備をすすめております。



オンライン参加 07 めだかの学校かごしま 久本 勝 紘

今年度で活動を終了し、メダカ保全活動の場としてきた岳の池が現状維持のまま、鹿児島環境未来館が管理を継続することになりました。



会長のおじゃましますコーナー

そのまま、いいから

～小田原市メダカサポーターの会の

「活動10年感謝の会」への参加報告～

尾田 正二



会場 神奈川県小田原市
日時 2024年1月28日(日)
17:30～20:30

高橋由季様、1月28日に小田原に伺い、高橋さんとお父様の静かで地道で、しかし芯が通った長年のご尽力が大きく美しく花開いているのを目のあたりにいたしました。心よりお二人の、そしてお二人と志を同じくされた皆様のご努力に敬意を申し上げます。本当によろしゅうございました。長い活動の間には、経済開発を止められずメダカの生息場所がなくなってしまうと、くやしい思いをされたことも一度や二度ではなかったものと想像いたします。ですが、お二人のメダカ愛は実を結びました。小田原の市民の方々が、メダカを守ることが持続可能な米づくり＝人間社会を取り戻すことであり、自然と共栄することが自分たち人間が生き残る唯一の道であることにしっかり気づかれました。開発によって一時的には小田原でメダカが住める場所が減ることが今後もあるかもしれませんが、メダカは日本中にいます。もしも小田原のメダカが少なくなっても、小田原でメダカが住めるようにさえなれば、日本中からメダカがやってきて、また住み着きます。何度もそうやって、メダカは日本列島に400万年前から住んできました。だから、どうぞご安心して、これまでと同じようにメダカ活動をお続けください。メダカサポーターの会が進んでいらっしゃる方向は正しいです。その方向が小田原市民の皆さんに示されている限り、小田原市の未来は大丈夫です。

以降は、小田原市のメダカサポーターの会の「活動10年感謝の会」に参加した日本めだかトラスト協会の会長として気がつきましたことを備忘録として綴りました。

とにかく若い会員が多いのが羨ましかったです。小学生の時にザリガニ釣りや田んぼ遊びやメダカパトロールに参加していた子が大学生になって、あるいは小さい子がいる親になってメダカサポーターの会に参加されています。メダカ活の世代交代が自然と進んでいて、良いサイクルが安定して回っている印象を受けました。高橋さん親子の頑張りの賜物です。さらに、元気なメダカ活動に共通する特徴ですが、行政(小田原市役所)との良好な関係(なんと前市長が熱心なサポーターとして活動に参加!)が構築されています。さらにメダカ水田で収穫されたお米を地域の企業様と協力して「メダカ米」としてブランド展開するなど、地元の農家、産業界とも良好で発展的な関係をつくられていました。しっかりと地域の生活の一部になることが、メダカ活が続く(生き残る)必要十分条件だと改めて教えられました。小田原市は神奈川県の西部にある人口20万弱の都市です。バブル期には東京・横浜のベッドタウン化が進みましたが、今は農業漁業と様々な生産業が程よくバランスされてスタンドアロンの地方都市として自立している印象です。小田原市をはじめ関東地方の開けた都市部では市民の持続可能性SDGsへの意識がとても高い傾向があり、メダカ活が広く市民の共感を得て、普通に支持される時代になっていると実感します。

メダカサポーターの会の「活動10年感謝の会」ではアトラクションとして立教大学の落語研究会の方の寄席がありました。若くて粗削りな落語ではありましたが、対面で直接聞くと楽しくやさしい気持ち自然と湧いてきて、思わず笑って拍手していました。小学生の時に田んぼ遊びしていたメダカサポーターの会の現役の若い会員さんが、小田原寄席と称して定期的に地元小田原市で寄席を開催しているそうです。

二つ目のアトラクションは市民の男性コーラスグループによる合唱でした。ギターの演奏でおじさん向けの往年の名曲をお聞かせいただいた後、小田原市が発祥の地である「めだかの学校」に参加者全員で合唱したら、やっぱり胸が暖かくなりました。メダカ活以外の活動グループとの交流が、老若男女を問わず市民の皆さんをメダカ活のまわりに集め、メダカ活の輪が自然と広がる構図になっています。高橋さん親子のメダカ活が、時間をかけて地域に一体化しているのを目撃しました。

メダカサポーターの会会長の山田純さんの文章

「目移りしない精神

生息地が、景色としてきれいでなくても、また、少しくらい狭くなったとしても、子供たちが笑顔になれるうちは、年老いてもその意味や大切さが分かるうちは、与えられた「緑」として生息地や仲間との出会いをとらえ、関わり続けてゆくやがて新しい経済の姿(持続可能なバリューチェーン)が立ち現れることを信じてここも地球の自然を守る最前線の一つであり、多くの仲間がいることを胸に刻んで」

小田原メダカサポーターの会では、田んぼを社会的公有財産＝「コモン」と認識されています。自分たちのメダ活を支えるモノは何だろう?と自問された山田さんには、子供たちの笑顔がその答えであったそうです。この世界の持続を実感できる、世界を次の世代にちゃんとバトンタッチできる、その実感があるからこそ、田んぼ作業が楽しいのだそうです。自分が為すべき仕事を成した喜び、安心感、達成感が、私たちを「働かせる」のです。楽しいから、^{よく}働けるのだそうです。古代ギリシアのアリストテレスが言った「エネルギー」そのものです。

会の副題の通り、まさしく「そのまま、いいから」でした。

ワークショップ【捨てメダカをゼロにするために】

日本めだかトラスト協会は「捨てメダカ」を「遺棄メダカ」と呼称する。

日本メダカ協会の佐久間事務局長がオンライン参加して下さった。改良メダカの業界においても遺棄メダカ、飼育メダカの放流は問題と捉えており、日本メダカ協会では販売する店頭での注意喚起、啓蒙活動を行い、また飼育できなくなったメダカの引き取り活動を既に始めているとのことであった。改良メダカ業界の垣根を越えて遺棄メダカ問題と向き合う「改良メダカの放流禁止を考える会」が立ち上がっており、日本メダカ協会も積極的に活動している。日本めだかトラスト協会は、野生メダカを保全してきた立場から「改良メダカの放流禁止を考える会」の活動に連携していくことが望ましいとの結論に至った。協会の会員がそれぞれの立場、状況を考慮してそれぞれの地域において改良メダカ業界と良好な連携関係を構築することを、日本めだかトラスト協会は妨げないし、日本めだかトラスト協会としても可能な支援を行っていく方向性を確認した。

観賞魚・アクアリストのマーケットにおいて改良メダカは大きな地位を確立しており、若い年齢層の愛好家も多い。また、改良メダカの飼育から入った愛好家の関心が、やがて野生のメダカに向くことも多いはずである。野生メダカ保全活動と改良メダカ業界が敵対関係となるのではなく、連携し win win の関係を構築するべきであり、そうすることが野生メダカ保全にも大いにプラスとなり、またメダカを通じて生命、自然を学ぶ啓蒙活動のさらなる推進の機会にもなると期待できる。



懇親会写真



1 たろやまの郷

NPO法人 四街道メダカの会の会員の方々にご案内いただき、たろやまの郷を見学した。たろやまの郷では高度経済成長期以前の里山の景観を復元した森の中を周遊できる散策路が整備され、谷津田ではメダカがいる米づくりが再開されている。谷津というのは丘陵地が長い時間をかけて湧き水や川に侵食されて出来た谷状の湿地をさす呼び名で、関東の台地に特徴的な地形である。谷津の一番上に貯水池があってメダカがたくさん越冬していた。

たろやまの郷においてもナラ枯れが発生して対策が課題となっていた。ナラ枯れは環境温暖化によるカシノナガキクイムシの増勢が原因である可能性が高いそうである。たしかに見学させていただいた10日も、12月だというのに暑いくらいであった。一方、里山の樹木を伐採しなくなったのでナラが高齢化して免疫力が落ちている樹木が多いから、という見方もあるようだ。

里山は日本人が試行錯誤の結果として行き着いた「自然とwin win の関係にある生態系」であり、人と自然の持続可能な共存の姿である。したがって、里山は人の管理(=干渉)が前提の生態系であり、放置すると生態系としての里山の豊かさが失われるという理解は間違っていないようだ。おそらくはナラ枯れの原因は一つではなくて、いろいろな原因でこれまでの微妙なバランスが不安定になっていたところに、ここ数年の温暖化がダメ押しとなって、とうとうバランスが崩れて誰の目にも影響が見えるようになったのだろうと思う。途中、コツコツと誰かが木をたたき音がして見上げたら、コゲラという小型のキツツキが木をつついていて、キツツキというのは、もっと山奥に住んでいるのかと思っていたので、驚いた。

来年の初夏にまた谷津田で米づくりが始まったら、ぜひ来たい。



2 成山川とメダカ田んぼ

成山川(正式名称は馬渡沢)

次に成山川が流れる別の谷津にあるメダカ池を見学させていただいた。コンクリートで護岸していない昔ながらの土の土手の小川から太陽光発電でポンプを回して水をくみ上げている「メダカ田んぼ」のメダカは寒いのかもう底の泥の中にもぐっていた。メダカが居候できた昔の米づくりは持続可能であって、それが今も現役で残っている成山は素敵であるが、農家の立場で農業の効率を考えると、やっぱり非効率だ。現状では、メダカが居候できる持続可能な米づくりをする農家が持続可能でない。都会の便利で快適な生活と、四街道の自然と共存する持続可能な暮らしとを、どうバランスをとった社会にしていくかが、日本人が100年後もメダカと一緒に生き残るためのカギになるはずだと考えた。



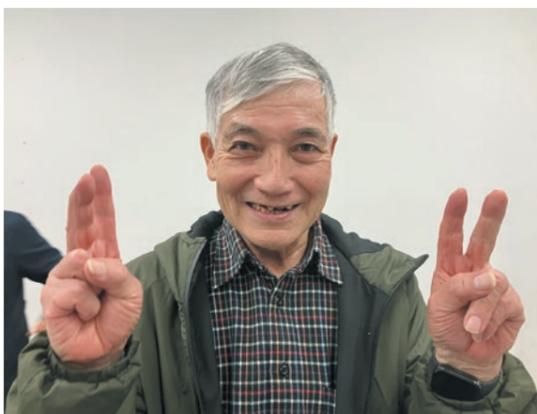
成山のメダカ池の近くに会長の任海さんのご自宅があり、敷地内の竹林には貴重なクマガイソウの自生地があるようだ。最後に四街道メダカの会の会員の方々が手作りしたメダカ亭を見学させていただいた。ドラえもん漫画に出てくるような水道管があった昔の広場の感じで、子供たちの格好の遊び場となっているそうだ。大人も楽しく遊べそうで、うらやましい限りであった。



感想

2023全国めだかシンポジウムに参加して

みんなで知恵を出し合って、遺棄メダカを失くしましょう。
尾田 正二



短時間でいい学習会ができてよかった。来年度総会に、参加させていただきます。

野生メダカを見守る会(群馬県) 大山 啓三

会員の皆様の地域活動には、強い感銘を受けました。いろいろな方法での取り組みは、とても勉強になりました。

特に子供を対象にした活動は、日本の将来のために重要だと思います。そのような活動がなされていること感謝です。

国際基督教大学 特任教授 小林 牧人



千葉県って、山がないんですね。どこまで行っても広い。関東ローム層も実感しました。四街道皆さまのすてきな組織力に、感激しました。ありがとうございました。みんな仲良く21世紀をおよぎしましょう。

豊岡六方めだか公園 岡本 邦夫



メダカの活動をされている方と直接お会いできてよかったです。自然が豊かな地域では、子どもたちが楽しそうに活動をしている姿が印象的でした。参考にさせていただきたいと思います。小林先生のお話が、とても参考になりました。「自然観察は楽しいですよ。」の言葉を大切にしていきます。ありがとうございました。

横浜メダカの会 有馬 武裕

四街道までいらしていただき恐縮です。四街道のメダカ、チャームングだったでしょう！

NPO法人 四街道メダカの会 任海 正衛



小林先生の世界初のメダカの××の動画が見れてよかったです。いろいろな人に見てもらいたいですね。やはり、現場へきて対面というのがとてもよかったです。トラスト協会の今後の取り組み課題を、たくさん知ることができて有意義な時間でした。

武生めだか連絡会 橋本 弥登志

皆さんの、元気なお姿を拝見して嬉しかったです。メダカの生育環境を守る人間の方が、絶滅しそうな現状に危機感を覚えました。若い人材の仲間づくりが必要ですね。

武生めだか連絡会 磯野 泰子



一年ぶりにお会いできるみなさまと、楽しい時間を過ごすことができました。2回目の東京大学柏キャンパス開催でしたが、基調講演・活動報告・現地見学会は前回とはまた違った内容なので、どれも新鮮!! 見たり聞いたり話したり、オンライン

では味わえない現場ならではの楽しさに、来てよかったとつくづく思いました。今回、やむなくオンラインになった方や参加できなかった方、令和6年第22回シンポジウムは越前市で開催です。ぜひみなさまの参加を、お待ちしております！

武生めだか連絡会 森 和恵